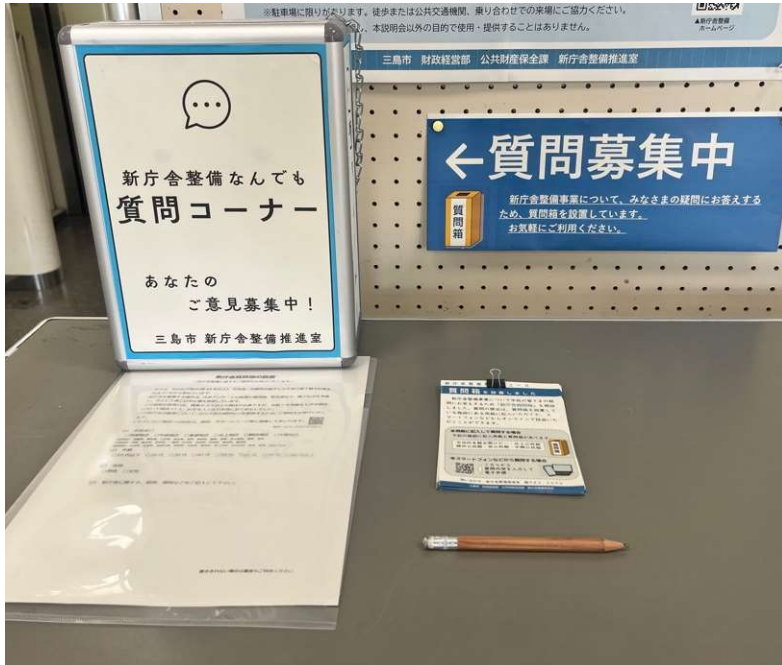


令和7年度 新庁舎整備事業 市民説明会

質問について

質問について



設置している質問箱

設置場所

市ホームページ
市役所本館ロビー、北上文化プラザ、
錦田公民館、坂公民館、中郷文化プラザ

御質問は
こちらから
(質問入力ページ)



街頭アンケートの様子
(日清プラザ)

本日説明する内容と同様の
動画を市ホームページに公開

基本構想の概要

はじめに

現在の市役所は老朽化や、狭あい化、庁舎機能の分散などの課題から、市民の皆様には大変ご不便、ご迷惑をおかけしています。

この課題解決に向けて平成27年度より新庁舎整備の検討を進めており、令和7年1月に新庁舎整備事業の骨格となる基本理念や基本方針、整備地案などの基本的事項を示した「三島市新庁舎整備基本構想」を策定したところです。

市庁舎の現状

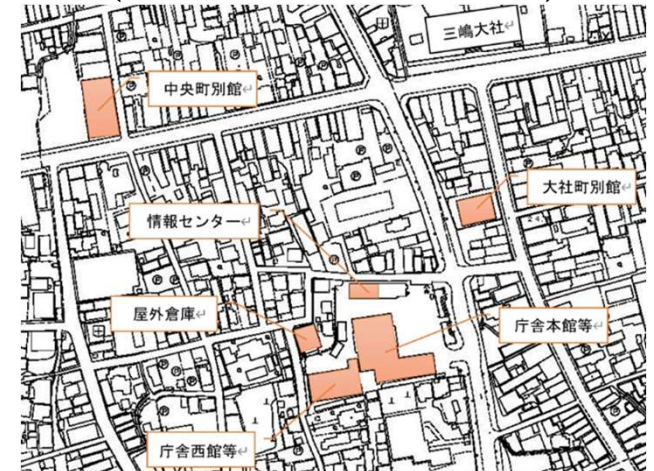
築後 65 年以上が経過
(文化財を除き県内で最も古い)



通路や執務室が狭い
(プライバシーの確保が難しい)



施設が分散している
(施設間の移動が必要)



基本構想の概要

これまでの取り組み

新庁舎整備については、平成27年度より本格的な検討を開始しました。これまで**約10年間**市民の皆様、議会をはじめ、民間業者や、他自治体、外部有識者など、様々な方から広く意見を集め、市民にとって使いやすく、便利な庁舎となるよう、検討を重ねてきました。

平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
庁内での検討開始	市議会での検討開始	市議会からの提言	市議会による他市町視察	市民アンケート調査①	市民会議	民間業者と対話型市場調査	市民ワークショップ	外部有識者による委員会	市民アンケート調査②

基本構想の概要

今後の予定

約6年後の市制90周年である令和13年度（2031年度）中の新庁舎供用開始を目標に事業を進めています。

令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 11年度	令和 12年度	令和 13年度
基本構想 基本計画	基本計画	基本設計	基本設計 実施設計	実施設計 建設工事 開始	建設工事	建設工事	建設工事 移転 供用開始

令和7年1月に基本構想を策定し、引き続き基本計画の策定作業を予定していましたが、「三島市の事務所の位置を定める条例」の制定後に進めるべきとの御意見から、現状では基本計画の着手に至っていません。このことから進捗には遅れが生じております。

基本構想の概要

基本理念と基本方針

4つの基本理念

- ・人と人がつながる庁舎
- ・歴史や文化を未来につなぐ庁舎
- ・誰にも便利で安全・安心な庁舎
- ・豊かな環境を未来につなぐ庁舎

12の基本方針

- ・庁舎機能の集約化
- ・他施設の複合化
- ・利便施設の併設
- ・長期使用への配慮
- ・施設の可変性
- ・基本機能の見直し
- ・DX 推進への対応
- ・新たな働き方への対応
- ・環境への配慮
- ・感染症対策
- ・災害への対応
- ・跡地等の有効活用

基本構想の概要

12の基本方針の概要

庁舎機能の集約化

- 分散する庁舎を1か所に集約化し、便利で分かりやすい施設にします。
- DX技術を活用し、業務の効率化とスリム化に繋げることでよりコンパクトな施設を目指します。

長期使用への配慮

- 施設の維持管理がしやすくなるように、材料の選定や形状の工夫などに配慮します。
- 歴史や文化の継承の観点から意匠性を考慮します。

他施設の複合化

- 他の公共施設を新庁舎に複合化することで、利便性の向上や事務の効率化を図ります。
- 他の公共施設を新庁舎に複合化することで、施設を合理的に維持管理していきます。

施設の可変性

- 将来の変化に対応できるスケルトン・インフィルなどの工夫をあらかじめ考慮します。
- 自動運転の普及など将来の駐車場需要の変化に対応できる工夫をあらかじめ考慮します。

利便施設の併設

- 要望の多い、市政・観光の情報コーナーや市民交流施設、国・県等の公共施設、金融機関、レストラン・カフェ、コンビニエンスストアなどの利便施設の併設を検討します。

基本機能の見直し

- 便利で使いやすく、プライバシーを確保した窓口の整備や、セキュリティ対策を強化します。
- バリアフリー化や、わかりやすい案内表示など基本的な庁舎機能の見直しを進めます。

基本構想の概要

12の基本方針の概要

DX 推進への対応

- 窓口業務の迅速化を図ることなどにより、利便性の高い市民サービスの実現を目指します。
- ペーパーレス化や業務のシステム化を推進することで効率的な行政運営を目指します。

感染症対策

- ウイルス感染などのリスクを軽減する対策を実施し安全安心な庁舎を目指します。

新たな働き方への対応

- 執務室についてはフリーアドレス化や、チーム型テーブル、ユニバーサルレイアウトなどを取り入れ、フレキシブルな対応ができるようにします。

災害への対応

- 防災拠点として、安全性や利便性を確保するとともに、受援体制を考慮します。
- 警察や消防等、他の公共機関との連携に配慮します。

環境への配慮

- 地球温暖化対策の上で必要となる、ZEB化や、省資源・省エネルギー設備の導入、再生可能エネルギーの活用について、災害対応や経済性など、長期的な視点を踏まえた上で検討します。

跡地等の有効活用

- 跡地等については、新たな人の流れを生み出す施設として整備していく必要があることから、関係団体等と連携しながら活用の検討を進めてまいります。

基本構想の概要

新庁舎の規模

新庁舎の延べ床面積は**13,234㎡**を目標とします。

現在の延べ床面積 (複合する施設含む)	国土交通省の基準で算定 した新庁舎の延べ床面積	三島市が目標とする新庁舎 の延べ床面積
15,789㎡	18,093㎡	13,234㎡

将来の人口減少や維持管理費の低減を考慮し、コンパクトな新庁舎を目指しており、現状の延べ床面積15,789㎡より**約2,500㎡少ない**、13,234㎡を目標としています。

これは国土交通省の基準で算出した面積18,093㎡より、**約5,000㎡少ない**面積となります。

このコンパクトな新庁舎を実現するため、AI技術の活用やペーパーレス化、職務スペースの見直しなどにより、必要な空間を確保します。

区分	施設名	現在	複合後
庁舎施設	本庁舎	7,130	10,421
	中央町別館	2,395	
	大社町別館	896	
その他施設		5,368	2,813
面積計		15,789	13,234

基本構想の概要

駐車場の規模

新庁舎の駐車場台数(公用車駐車場含む)は**240台**を目標とします。

現在の駐車場台数 (複合する施設含む)	全国50自治体との相関関係 から算出した駐車場台数	三島市が目標とする新庁舎 の駐車場台数
223台	241台	240台

現庁舎の駐車場は狭く、余裕がないことから、利用者の方々にご不便をおかけしている状況であります。

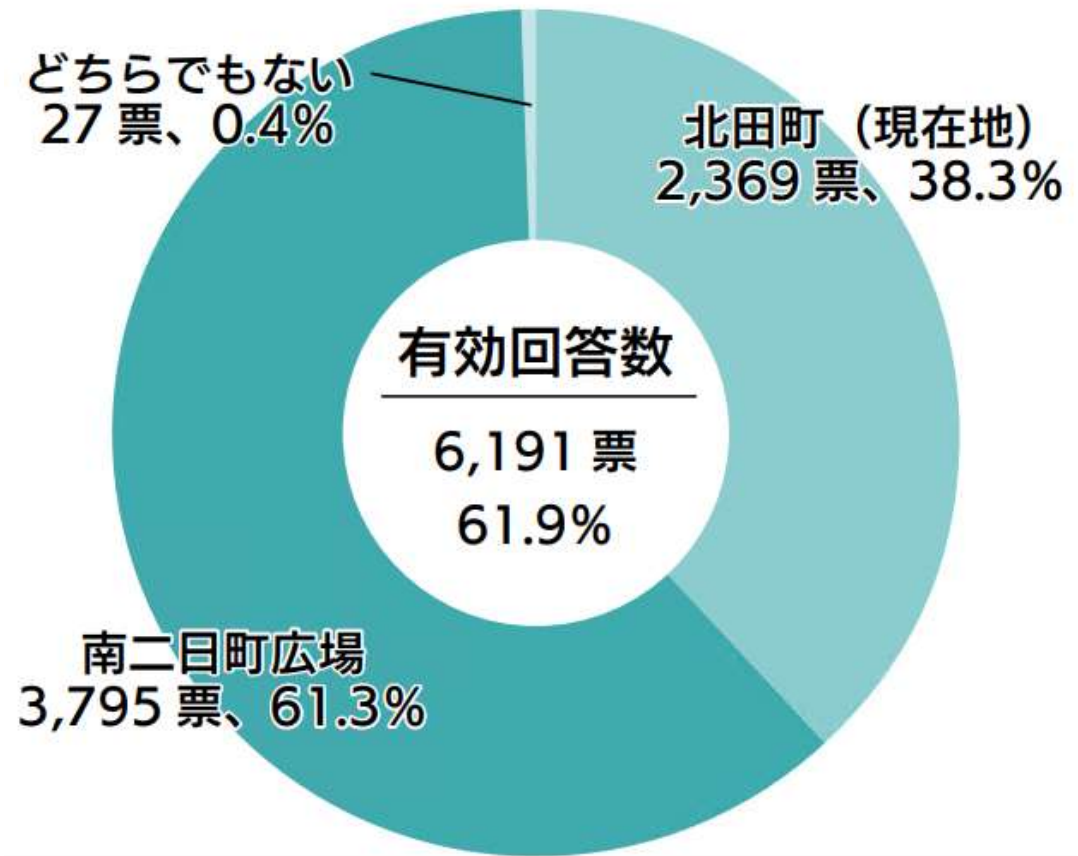
新庁舎の駐車場台数は、近年、新庁舎を整備した全国50自治体の駐車場台数と自動車保有台数との相関関係も考慮し、240台を目標とします。

これは**現状より17台増**えた駐車場台数となります。

基本構想の概要

新庁舎整備地の提案

新庁舎の整備地案については、市民や議会からいただいた多くのご意見をもとに、費用面や防災面、利便性などに加え、跡地の活用、歴史的背景、土地の所有状況、環境面など、様々な観点から検討や検証を重ねてきました。さらに市民アンケート調査の結果も尊重したうえで、総合的に判断した結果、新庁舎の整備地を**南二日町広場**として提案しています。



令和6年5月に市民1万人に「どちらが整備地にふさわしいか」を聞いたアンケート調査の結果

基本構想の概要

さまざまな観点から慎重に検証、検討を重ね総合的に判断し、南二日町広場を新庁舎の整備地として御提案することをお知らせする市長メッセージ動画を令和6年8月に公開しました。

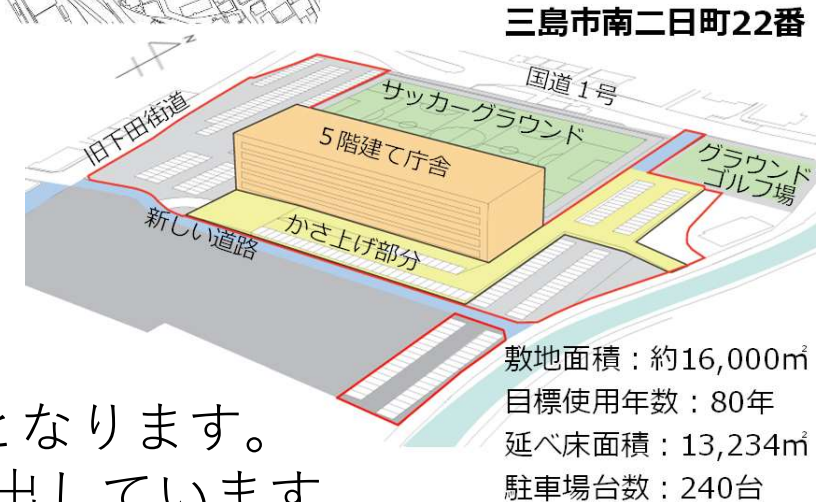
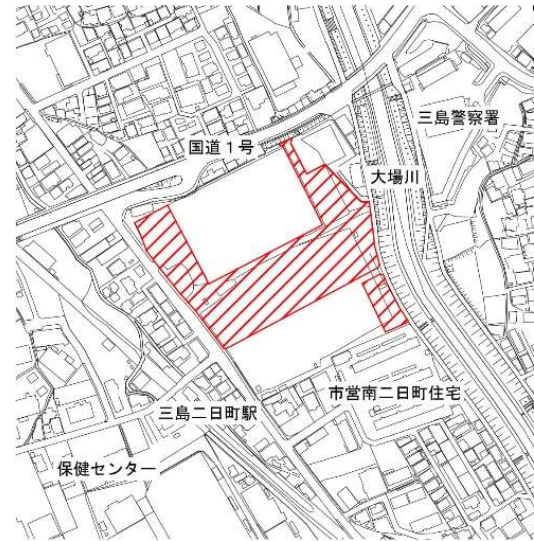
メッセージ動画文章の一部抜粋

費用面	建設コストが抑制できるほか、ライフサイクルコスト（建築物の生涯にかかるコスト）についても、縮減を図ることができます。仮設庁舎が不要となり、引っ越しやその都度のOA機器の配線作業など、諸費用の縮減にもつながります。
防災対策	敷地が広く、災害時の受援体制において、活動拠点の多くを機能的に配置することができます。敷地をかさ上げするとともに、国道1号からの進入路を整備して、浸水対策には万全を期していきます。
市民の利便性	一棟建てにすることにより、各フロアも広くなり、ワンストップサービス窓口の設置も可能となります。多くの市民の皆様が集う施設として、休日や時間外の利用も想定し、利用しやすい施設となるように、カフェやコンビニエンスストアなど要望の多い機能も導入し、利便性の高い庁舎に生まれ変わります。ご不便をおかけしている庁舎駐車場についても、台数のみならず利便性も重要であることから、ユニバーサルな視点で、どなたにも使いやすくなるように整備していきます。交通アクセスについては、二日町駅や国道1号に近接しており、バス路線の見直しも図っていきます。
跡地の活用	本庁舎や中央町別館や社会福社会館等の敷地は、まちなかの更なる賑わいの創出に向けて、活用を図ることを目的とした、基本構想を別途策定していきます。新庁舎整備により生じる複数の跡地等を有効に活用することによって、まちが持つ潜在的な魅力を最大限に引き出し、多くの方々に来訪していただくことができ、新たな人の流れを生み出していくことができるようになるものととらえております。

基本構想の概要

南二日町広場での新庁舎の想定

- ・ 5 階建て1 棟を想定しています。
- ・ 既存の土のグラウンド部分に庁舎を新築します。
- ・ 既存サッカーグラウンドは残し、グラウンドゴルフ場は再整備します。また、それぞれのグラウンドは相互に利用できるようにします。
- ・ 浸水対策として敷地の一部をかさ上げし、国道1 号に直接出入りが出来るようにします。
- ・ 敷地内に円滑な導線为确保するための新しい道路を整備します。
- ・ 新庁舎の現時点での概算事業費は**約105.8億円**となります。
- ・ 最新の国土交通省の予算単価をもとに金額を算出しています。
- ・ 物価上昇率は年間3%を想定しています。

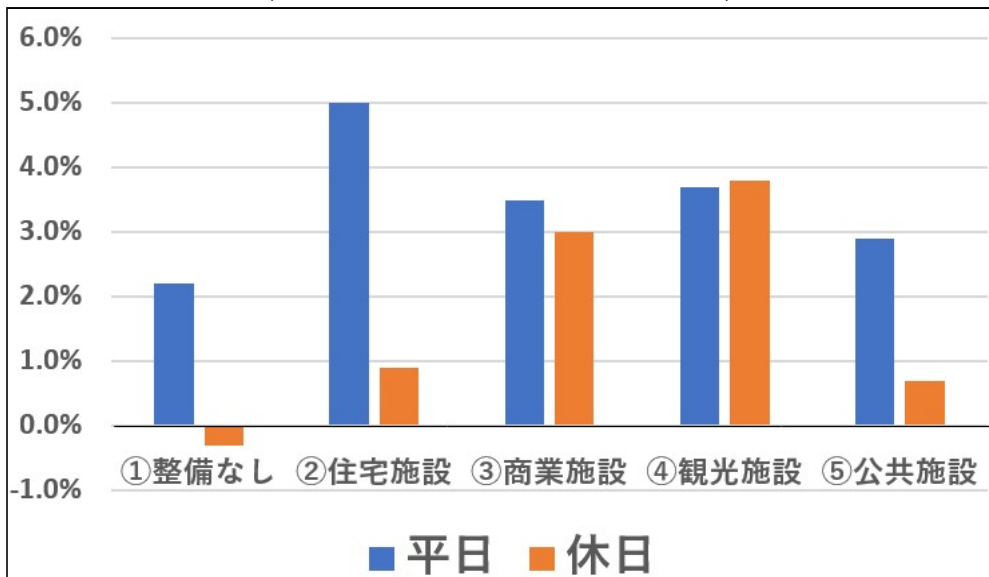


基本構想の概要

跡地の有効活用

新庁舎整備によって生じる複数の跡地（現本庁舎、中央町別館、社会福祉会館など）を有効活用し、まちなかの活性化と更なる賑わいを生むまちづくりにつなげるため、ビッグデータを活用し、人の動きをシミュレーションすることで、跡地の活用方法を検証しました。

シミュレーション結果
(人の動きの増減割合の比較)



- ・ **平日**では跡地に**住宅施設**を整備した場合、人の動きが最も増加した。
- ・ **休日**では跡地に**観光施設**を配置した場合、人の動きが最も増加した。



平日、休日ともに公共施設より民間施設（住宅、商業、観光）を整備した場合の方が、人の動きが増加した。

跡地等が生じることは、**市が発展する最大のチャンス**として前向きにとらえ、今後、関連団体や民間、市民などが御参加できる機会を設けるなどの連携を図ることで、まちなかのにぎわい創出につなげていきます。

基本構想の概要

候補地の比較

基本構想において、候補地とした北田町（現在地）と南二日町広場における計画案について様々な検討を行いました。

検討結果の抜粋

	北田町（現在地）	南二日町広場
概算事業費	約117億円	約105億8千万円
概算ライフサイクルコスト	約338億5千万円	約314億4千万円
工期	6年以上	3年
仮設庁舎	必要	不要
1階床面積想定	約2,000m ²	約2,700m ²
1階配置可能部署想定	7部署	15部署
跡地の想定箇所	5か所	6カ所

候補地の比較検討結果まとめ

項目	北田町(現在地)	南二日町広場
費用	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎が複数棟になることや仮設庁舎、立体駐車場の整備が要因となり、概算事業費が南二日町広場案よりも上回る。 ・別途経費としている引っ越しやOA機器の配線作業が複数回に及ぶことから、南二日町広場案よりも上回ることが想定される。 ・庁舎が複数棟となることや駐車場の立体化などが要因となり、ライフサイクルコストが南二日町広場案よりも上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧下田街道と国道1号からのアクセス道路やグラウンドゴルフ場の整備、かさ上げによる浸水対策等が必要になるが、建物が1棟建てで、仮設庁舎や立体駐車場が不要になることから、概算事業費やライフサイクルコストは、北田町（現在地）を下回る。 ・別途経費としている引っ越しやOA機器の配線作業が建物の建設に合わせて、1回で済むことから、北田町（現在地）案よりもコストの縮減が図れる。 ・土地の交換を行うことで、借地料の縮減が期待できる。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の受援体制における活動拠点を機能的に配置することが難しいため、複数の施設に配置しなければならないと想定される。 ・地震による建物倒壊や火災が発生した場合、密集度が比較的高い地域であることから、災害対応に影響を及ぼす可能性が危惧される。 ・過去に現庁舎の周辺で液状化の被害があったとの記録もあることから、対策の検討が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の受援体制における活動拠点の多くを機能的に配置することが可能となる。 ・最大浸水想定（俗にいう千年に1回程度の降雨規模）により、大場川の右岸側（南二日町広場付近）で溢水が発生した場合に備え、想定される浸水高さ以上に敷地をかさ上げた上で、国道1号から直接出入りできる車路等を設けるとともに、建物機械室等は上層階に配置することで浸水への対応ができる。 ・現在有しているデータから地表面での液状化対策は不要と判断しているが、盛り土工法によるかさ上げにより、さらなる地盤の強化が見込まれる。

候補地の比較検討結果まとめ

項目	北田町(現在地)	南二日町広場
利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかに近く良好な立地条件ではあるが、敷地規模から機能性に懸念がある。 ・ 市民から要望のあるコンビニエンスストアなどの利便施設を併設する場合には、建築が可能な延べ床面積から実現できる規模は限定的となる。 ・ 敷地面積から仮設庁舎の規模縮減を図るために新庁舎は高層化し、複数棟に分割して建設することが求められる。分割した庁舎は、部署の配置や人の流れが複雑となり、市民等の利便性の確保が難しくなる。 ・ 現庁舎の機能を維持しながらの工事は、工事期間中の駐車場の確保が困難となることから、数年にわたる周辺民間駐車場の活用等の検討が必要となる。また、騒音などで事務に支障をきたす恐れもある。 ・ 工事期間中は、敷地規模や工事手順から、長期間にわたって安全性と利便性の確保を両立させることが難しい。 ・ 令和3年度に新庁舎の供用を開始した全国53自治体に対するアンケート調査では当市の検討案と類似する事例が無いこと、さらには、地元ゼネコンを対象としたサウンディング型市場調査においても、部分的に解体や建設を繰り返すことを懸念する意見が多く寄せられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南二日町広場案は十分な敷地面積があるため、北田町（現在地）の整備において懸念される駐車場の平面での確保といった事項は概ね解消される。 ・ ワンフロアの床面積を広くとることが可能になるため、窓口業務のワンストップ化など、市民の利便性の向上を図ることが出来る。 ・ 敷地面積から、利便施設の整備など、多くの市民ニーズへの対応も可能であり、将来の多様な変化にも柔軟に対応ができる。 ・ 交通アクセスは、バス路線の見直しを図ることで利便性を確保することができる。また、電車や自家用車での来庁者には、三島二日町駅や国道1号に近接していることから、良好な立地条件と考える。

候補地の比較検討結果まとめ

項目	北田町(現在地)	南二日町広場
跡地の活用 (まちづくりの観点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータを活用した跡地等のシミュレーションにおいては、民間活力の導入により、観光施設や商業施設、居住施設等を整備することにより、一層の賑わいの創出が期待できるとの結果になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータを活用した跡地等のシミュレーションにおいては、民間活力の導入により、観光施設や商業施設、居住施設等を整備することにより、一層の賑わいの創出が期待できるとの結果になっている。また、北田町(現在地)も跡地になるので、より一層の賑わいの創出が期待できる。なお、周辺地域の活性化においても、需要の広がりが期待できると分析をしている。 ・跡地等については、多くの市民から、まちなかの活性化に利用すべきとの意見をいただいていることから、賑わい創出の拠点的な役割を担う施設となるように検討を進める。 ・立地適正化計画においては、賑わいと交流の創出を図るための中心拠点エリア内に位置づけられていることから、北田町(現在地)と同様に適地であると捉えている。
歴史的 背景	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性に優れた敷地であるとともに、歴史的に庁舎のほか代官所、農兵の調練場、小学校などに利用されてきた場所として親しまれている。 ・今後もその歴史的価値を留める対応が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧三島町の南部に位置し、県立三島南高等学校が立地していた敷地である。
土地の 所有状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全て市有地ではあるが、敷地が手狭であることから、拡張が必要になった場合、周辺敷地を取得または借用することになるが、周辺の状況から拡張規模は限定的となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設を整備するために取得した経緯があるが、一部がスポーツ施設用地として借地となっている。 ・配置を工夫し、庁舎部分には基本的に借地を含めない。
環境への 配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・消費エネルギー軽減と合わせて、太陽光などの再生可能エネルギー導入を検討しなければならないが、機器の設置が可能となる屋上や余剰空間などは比較的手狭である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光などの再生可能エネルギーは、屋上面積が広くとれることや余剰敷地を有効活用することで、より多くの機器の設置が見込めるため、効果的な運用が期待できる。

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

床面積は広くないか

新庁舎を整備した全国の多くの自治体は、国土交通省が定めた基準を参考にしていますが、効率を考えた上で最小限とすべきとの提言があったことから、13,234㎡を目安として進めることとしています。

公共建築物個別施設計画をもとに、新庁舎整備基本構想において目安としている施設規模 【計画の面積】	13,234㎡
3か所に分散する庁舎施設と複合化を予定しているその他の施設の現在の延べ床面積の合計 【現在の面積】	15,789㎡
国土交通省が定めた基準を参考に令和5年4月時点の職員数で算出した施設規模 【国基準の面積】	18,093㎡
国立社会保障・人口問題研究所の予測に基づく将来的な人口減少を考慮した職員数で算出した施設規模 (2030年時点で約10万人とする人口が、2065年時点で約6万5千人まで減少するとの予測) 【計画の面積に近似する参考例】	13,851㎡

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

想定の概算事業費は高くないか

国土交通省が公表する民間建築物（事務所用途）の建物着工統計データに基づく施工単価と、南二日町広場での基本構想段階における概算事業費（建設費）を比較しました。

坪単価の比較（千円/坪）

	民間建築物 （事務所用途）	南二日町広場 概算事業費（建設費）
庁舎 （事務所用途）	1,947	1,868

※物価上昇分の考慮無し

南二日町広場での概算事業費（建設費）は、国土交通省が公表する民間建築物（事務所用途）の建物着工統計データに基づく施工単価よりも安くなります。

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

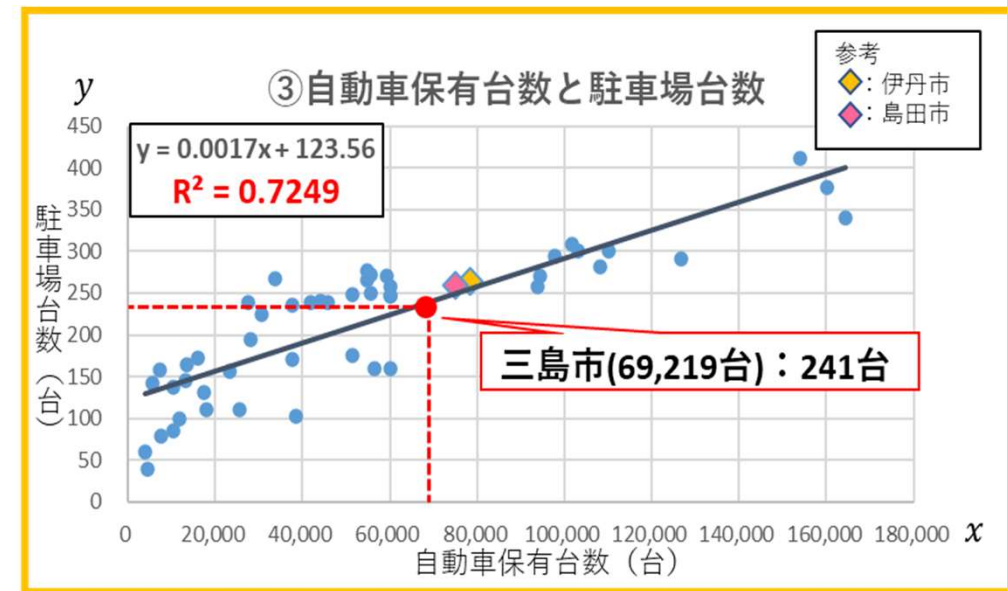
駐車場台数は妥当か

新庁舎に整備する駐車場台数の目標は、現状の223台から17台増やした240台とします。これは、近年、新庁舎を整備した全国50自治体の駐車場台数と自動車保有台数との相関関係を考慮したものとなります。

現在の駐車場台数 (複合する施設含む)	全国50自治体との相関関係から算出した 駐車場台数	三島市が目標とする新庁舎の駐車場 台数
223台	241台	240台

	本庁舎	中央町別館	大社町別館	市営中央駐車場	その他	合計
来庁者	63	6	4	0	26	99
公用車等	30	9	4	54	27	124
合計	93	15	8	54	53	223

全国50自治体との相関関係



これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

浸水対策については問題ないのか

「三島市洪水ハザードマップ」による想定最大規模の洪水浸水想定区域図とは、想定し得る最大規模の降雨（南二日町広場における降雨量は、48時間で844mm）に加えて、大場川沿いに100m前後の間隔で想定された複数箇所すべてが決壊（南二日町広場においては溢水）した場合の浸水シミュレーションを表した図となります。

この洪水浸水想定区域図は、命を守るための行動（避難行動）を優先するため、広く周知することが義務付けられています。

日ごろから備えていただくため、作成においては被害が最大となるように計算条件が設定されており、市内南部の多くが想定最大規模の洪水浸水想定区域に該当し、南二日町広場も含まれます。

想定最大規模の洪水浸水想定区域図は、いわゆる千年に1度と称される雨が降っただけで生じる現象を示したものではなく、あくまでも、想定し得る最大規模の降雨とそれによる決壊が複数箇所が生じた場合を示したものとなります。



これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

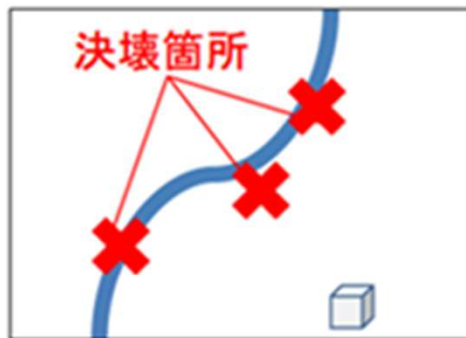
浸水対策については問題ないのか

国土交通省HPより

浸水想定区域図の作成手順

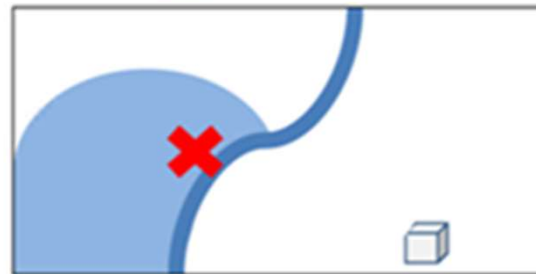
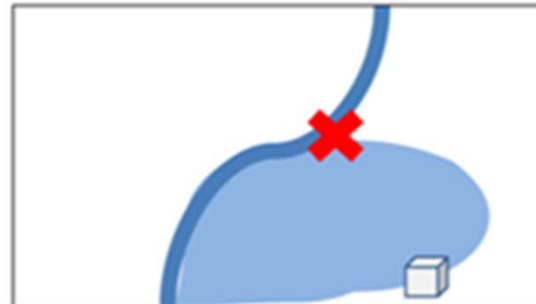


想定し得る最大規模
の降雨で計算

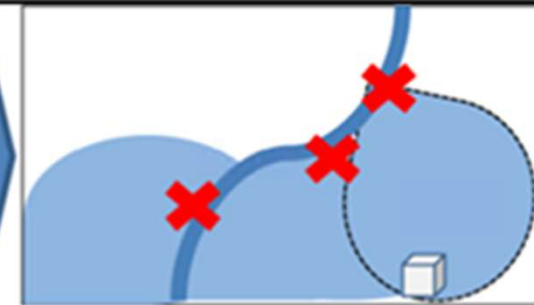


①複数の決壊箇所を
想定します。

時間の経過によって
氾濫域は異なります
ので、最大浸水域を
計算しています。



②それぞれの最大浸水域を計算します。



③浸水域を
重ね合せ
ます。

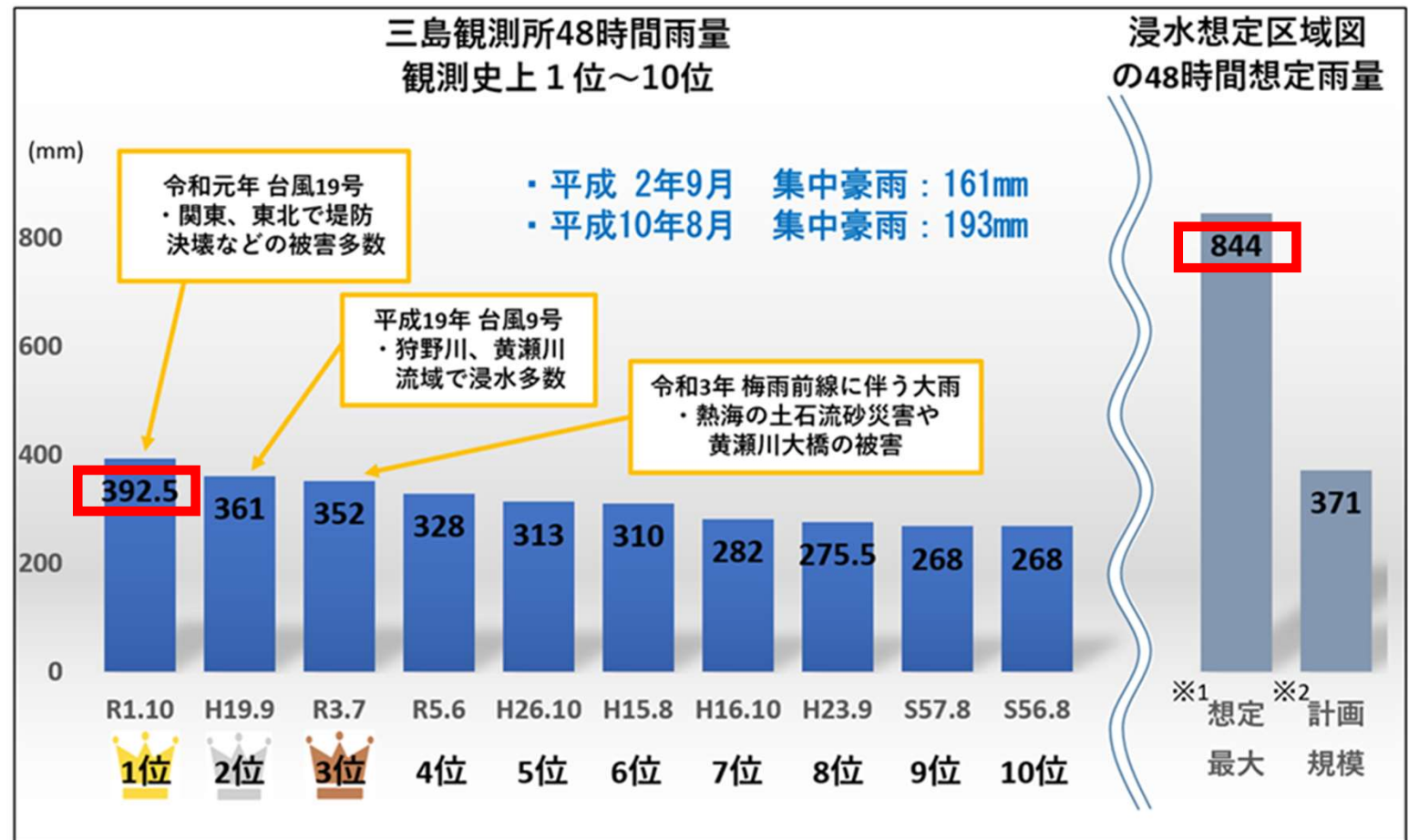


④浸水想定区域の公表

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

浸水対策については問題ないのか

また、計算条件となる想定し得る最大規模の降雨と三島観測所の実績雨量を比較しますと、想定し得る最大規模の降雨は、南二日町広場において48時間で844mmとなっており、三島観測所観測史上1位となる令和元年の台風19号による雨量(392.5mm)に対して2倍以上の想定となります。



これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

浸水対策については問題ないのか

これまで大場川では、平成2年9月と平成10年8月に護岸の浸食が発生していますが、静岡県ではこれら2度にわたる被害を受け既に改修工事を完了しており、これにより、平成10年以降、大雨による護岸の浸食などの大きな被害は発生していません。

なお、このような状況を踏まえた上で、南二日町広場における新庁舎整備の配置計画におきましては、浸水対策として敷地の一部をかさ上げし、国道1号に直接出入りができるように配慮しています。

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

液状化については問題ないのか

液状化につきましては、「建物構造」と「地表面」に分けて検証しています。

建物構造について （建物があるところ）	液状化発生の有無については、地表から地中20メートルまでの地盤を総合的に評価することで確認することができますが、新庁舎整備においては、地中20メートルよりもさらに深い支持地盤に杭基礎を定着させることを考えておりますので、液状化の 影響を避けて建築することが可能 と考えています。
地表面について （建物が無いところ）	内閣府中央防災会議専門調査会が示す資料から、液状化の可能性が低いことを確認しています。 さらに、大規模地震時において、地表が最大でどの程度変位する可能性があるか試算したところ、最大で3センチ7ミリとなり、この結果を国土交通省が示す基準に照らし、地表面への 影響の程度は『軽微である』 と判断しています。

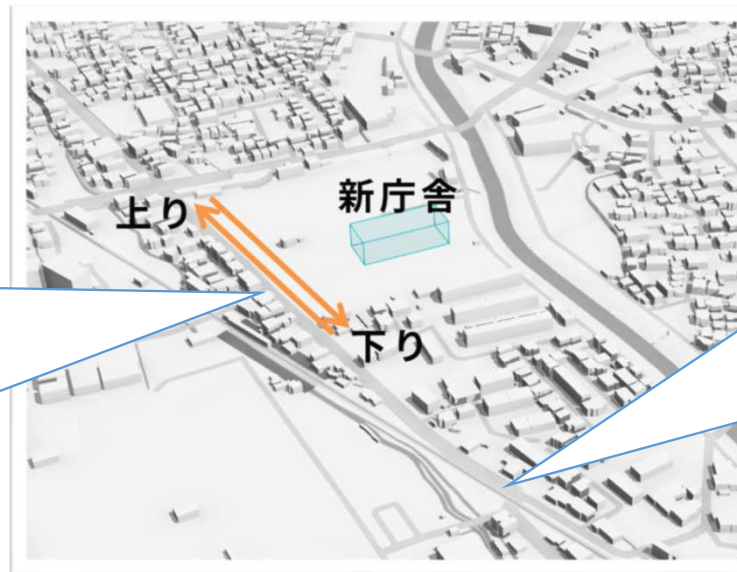
これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

交通混雑が心配

南二日町広場周辺の交通混雑を懸念する御意見をいただいたことから、交通状況を把握するため職員による現況調査を実施しました。

①二日町駅入口丁字路交差点付近

上り、下りの大型車、普通車、バイク、自転車、歩行者を計測



②横浜ゴム三島工場前踏切付近

道路混雑の状況、踏切の状況、大型車両の状況を確認

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

交通混雑が心配

調査から分かったこと

①二日町駅入口丁字路交差点付近

- ・朝の時間帯は下りより、上りの方が約1.5倍程度、車両数が多い。
- ・車両は8：00前後の時間帯が最も多い。
- ・人、自転車の動きは7：00台が多い。
- ・小学生が数名、7：00台に通学している。
- ・二日町駅入口の信号で車が滞留することはあるが、基本的には信号が青になれば滞留は解消され、大きな渋滞とはなっていない。
- ・国道一号の支線(菊池薬局丁字路)に右折で上ろうとする大型車両と支線から左折で下田街道を南下しようとする大型車両があるとすれ違いず停滞することがあるが、2時間で1,2回程度となっており、数十秒から数分で解消される。

②横浜ゴム三島工場前踏切付近

- ・踏切は一度閉まると50～80秒（平均70秒）開かない。
- ・7時台を例にすると11回踏切は開閉している（770秒閉まっている）
- ・このことから、1時間のうち約20%の間、踏切が閉じていることになる。



大型トラックの出入りの影響も少なからずあるが、踏切による影響が最も大きい。

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

交通混雑が心配

今後の展開

より専門的で具体的な検証を行うため、**交通アセスメント**※**業務を実施**します。

※数か所で交通量調査を実施し、現状分析をします。また、庁舎ができた場合の交通量を推測し、必要な交通対策を検討します。

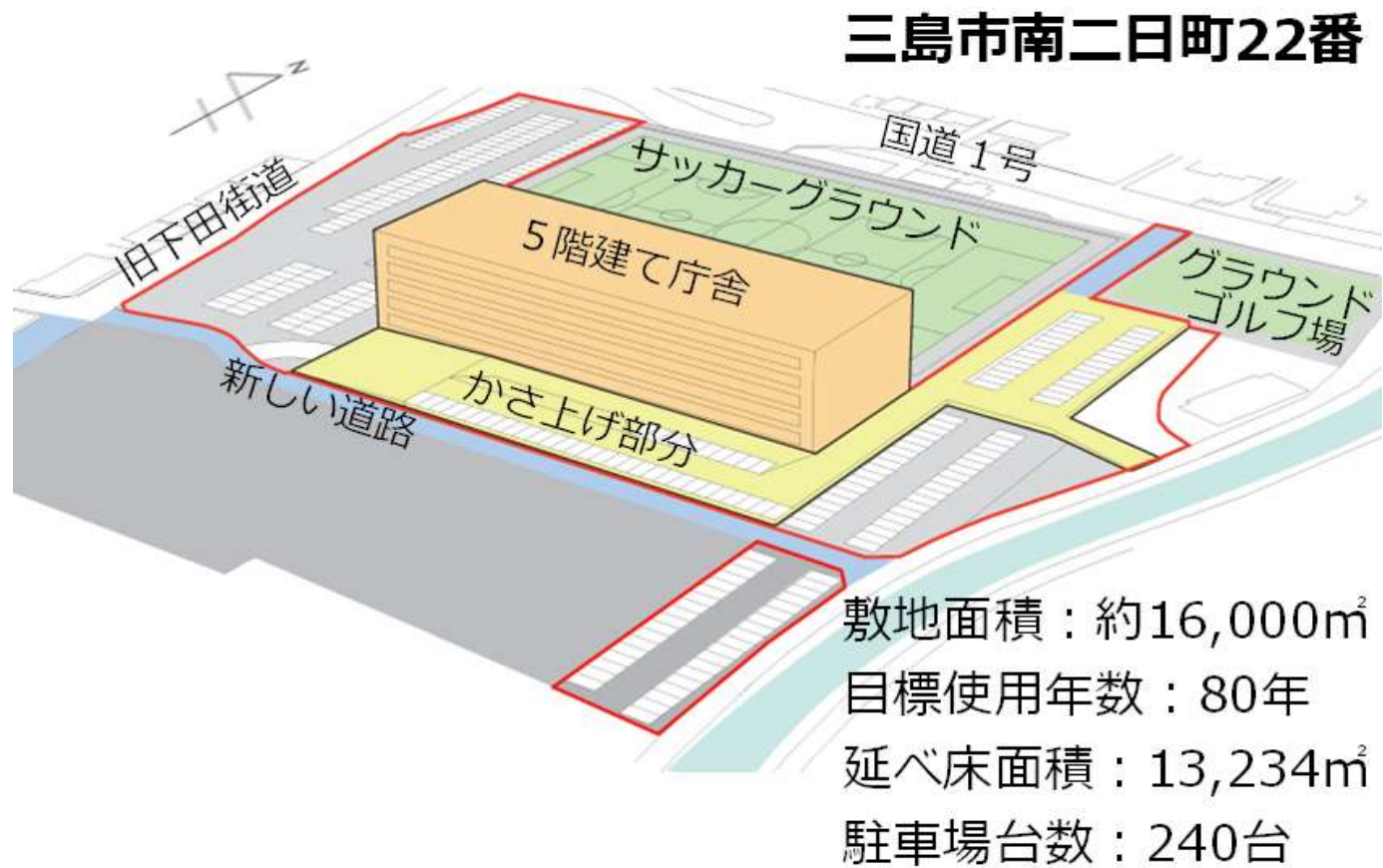
- 実施した現況調査を踏まえると、交通混雑のピークは庁舎開庁時間よりも前の時間帯であるため、現状での交通混雑は庁舎利用者に直接的な影響は与えにくいものと考えますが、庁舎開庁時に想定される交通混雑がピーク時を上回るなどの影響が確認されれば、庁舎整備としての対策を検討します。
- 開庁時間よりも前となるピーク時は、職員の通勤と重なる恐れがあります。現状では約250名の職員が自動車通勤をしているため、交通アセスメントの結果を踏まえ、動線や時間帯の分散を検討します。
- 大型トラックよりも踏切による影響が大きいものと思われるますが、交通アセスメントの結果を踏まえ総合的に判断し、必要な対策を検討します。

これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

サッカーグラウンドは残るのか

建築物と同様に、スポーツ施設についても、ファシリティマネジメントの観点から統廃合の検討が必要ですが、新庁舎はサッカーグラウンド敷地には配置しないため、使用できる間は、現在のサッカーグラウンドは現状のまま残ります。

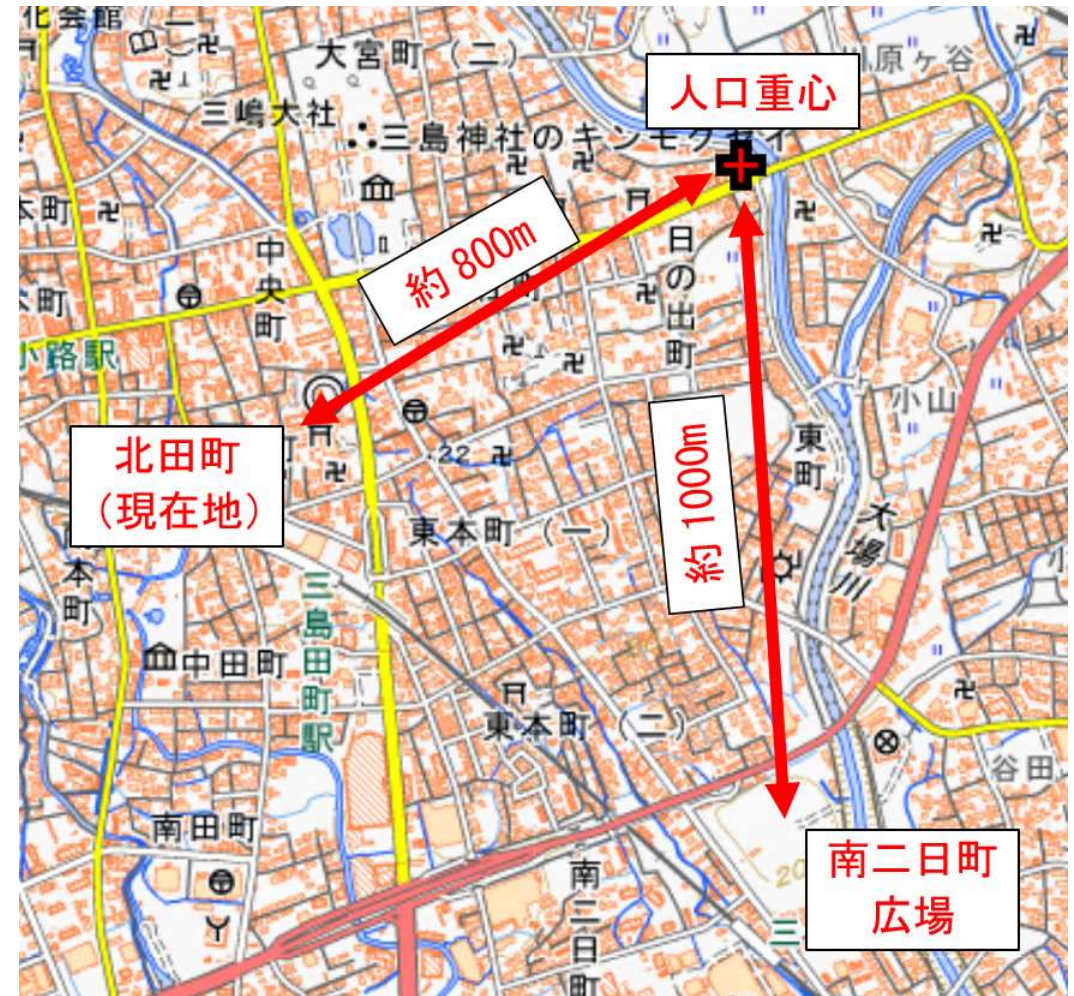
グラウンドゴルフの練習場所は再整備し、サッカーグラウンドとあわせ相互利用を可能とするなど多目的な利用を検討します。



これまでにいただいた懸案事項（抜粋）

自宅から遠くなる

総務省が公表する国勢調査の結果を基とした人口重心（人口分布から割り出した中心）は、日の出町新町橋付近となっており、北田町（現在地）から約800m、南二日町広場からは約1,000mといずれも離れていないことから、人口分布の観点においては適切なものにとらえています。



条例案の否決にあたり議員からいただいた御意見（抜粋）

コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想でコスト削減を約束すべき ・安価な工法、短い使用年数の建物を検討し基本構想に記載すべき ・基金の積立計画を基本構想に記載すべき ・コンパクトシティが広がりインフラ費用が増えることを懸念する ・人口減少に伴い大きな庁舎は不要となる ・100億円を使うことへの警鐘。冷静になるべき
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの活性化の確証がほしい ・中心市街地の空洞化を懸念する ・市のビジョンが見えてこない ・まちづくりのビジョンを示すべき
時期	<ul style="list-style-type: none"> ・検討の精度を上げてからの上程で良い ・90周年に合わせる必要はない ・道路整備や調査に係る費用などを精査してから上程で良い

住民説明	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への説明が十分ではなく、不安が解消されてない ・市民からの意見を伺うべき ・市民、議員との議論を深めてからの上程で良い ・地域ごとに丁寧な説明、理解が必要 ・市民への丁寧な説明と合意形成が必要
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・車を持たない北上地区住民への具体的な対応が必要 ・街中から南二日町までの具体的なアクセス方法を示すべき ・下田街道の抜本的な安全対策、渋滞対策が必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎関連事業とそれ以外の仕分けが必要 ・南二日町周辺の内水氾濫の抜本的な対策が必要 ・心のよりどころの庁舎は中心市街地にあるべき

御意見を踏まえた市の取り組み

- ・基本計画の策定に向けて庁舎施設に採用のできる安価な工法の調査研究
- ・南二日町広場周辺の交通状況を把握するため職員による現況調査を実施
- ・交通状況の調査、分析のため、交通アセスメント調査を実施
- ・南二日町広場周辺の道路整備、改良のほか、通行時間の設定や一方通行化、自転車通行帯、カーブミラーの設置などについて、道路交通アセスメント調査を踏まえ検討
- ・既存道路における排水能力の検証に加え、浸水箇所に近接している普通河川桜川における流域の調査並びに流下能力の検証を行い、効果的な対策を検討
- ・上記検討により有効な対策案ができれば、実施設計を行い、工事着手を図る
- ・まちなかの賑わいづくりを所管するために新設したまちなか賑わいづくり推進室を中心にまちづくりビジョンの作成を進める
- ・市内4地区で市民説明会を開催
- ・本庁舎及び各公民館、市ホームページに質問箱を設置
- ・市役所や他の公共施設に来庁の市民に対してアンケート調査を実施

このような取り組みを通じて、いただいた御意見にお答えしていきます。

情報の発信

三島市ホームページトップ画面



新庁舎整備情報画面QRコード



ご清聴ありがとうございました。